



2010年度

日本福祉大学アジア福祉社会開発研究センター国際研究集会

3月13日（日）国際シンポジウム

福祉社会の開発と支援ワーク

3月16日（水）公開ワークショップ

「場」から拓く支援とフィールドワーク



日時：2011年3月13日(日)・3月16日(水)

場所：日本福祉大学名古屋キャンパス北館8階

目 次

3月13日（日）国際シンポジウム

1. 研究集会の案内 2

基調講演

2. 「福祉社会の開発・支援」の検討 3
余語トシヒロ（日本福祉大学）

報 告 アジアセンター3年間の歩み～ 開発と福祉の視点から

3. 「福祉社会開発の方法」研究の歩み 2
4. 福祉社会開発の支援ワーク 2

パネルディスカッションⅠ 地域再生における政策・場づくり・支援ワーク

5. 高知県での地域づくりの取り組み 2
田中佐和子・森本美佐子（高知県地域づくり支援課）
6. 韓国鎮安郡での村おこしの取り組み 2
具滋仁（鎮安郡戦略産業課村づくり支援チーム）

パネルディスカッションⅡ 地域での社会関係の再構築

7. 北芝での取り組み 2
池谷啓介・中嶋三四郎（暮らしづくりネットワーク北芝）
8. 釧路での取り組み 2
日置真世・高橋信也（地域生活支援ネットワークサロン）

3月16日（水）公開ワークショップ

1. ネパールの被差別カーストの運動に寄り添う 2
中川加奈子（関西学院大学）
2. チリの開発プロジェクトでの偶然の出会い 2
内藤順子（日本女子大学）
3. 渋川のおばちゃんたちが挑む地域づくり 2
辰己佳寿子（山口大学）
4. ブルキナファソ農村の女性グループとともに 2
浅野史代（名古屋大学大学院）
5. タンザニア農村の一時漂泊者 2
黒崎龍悟（福岡教育大学）
6. 支援のフィールドワークを深めたい人へ 2
白石壮一郎（関西学院大学）

- 参考資料 2

日本福祉大学アジア福祉社会開発研究センター国際研究集会

当センターは過去2年半、「国際共同フィールドワークに基づく福祉社会開発の方法論研究」を推進してきました。この国際研究を組織するにあたって、一方的に海外のデータを収集してくるのではなく、相互支援する研究ネットワークの構築を目指しています。多文化チームが共同フィールドで観察を共にしながら討議を重ね、その洞察を各自がもちかえって自国の福祉課題を追求するのを、支えようとするものです。そこでまず高知、釧路など国内の注目すべき実践現場を共同フィールドとし、次第に研究交流の場を箕面市・北芝、韓国、中国、さらに東南・南アジアに広げてきました。研究者が何かしら実践現場に関与するとともに、そうした関与の視点と関係変化のプロセスを踏まえて、現場における観察主体自身を相対化し、その上で対象を解釈・再構成して討論材料を提供する「メタ現場」の形成を方法的な特徴としています。

今回の集会では、そうした方法の成果を再び現場実践者と共に検討し、さらに「支援の方法論」へとつないでいく議論を展開したいと考えています。「観察・被観察」という二項関係を乗り越える方法は「支援・被支援」の分断を越える試みに通じると考えるからです。一方的な「ワーカー・クライアント」関係から「変化する地域アクターとしての支援者」へと観点を拓く手がかりが、私たちの共同フィールドワークから見えてくるのか、そこに今回の課題を設定しています。

この1か月間、プレシンポ「障碍当事者が主体となるまちづくり」をはじめ一連の企画を展開していますが、その締めくくりとして以下の2つのイベントを設けています。みなさまの熱心な参加をお待ちしております。

アジア福祉社会開発研究センター長 穂坂光彦

3月13日（日）国際シンポジウム

福祉社会の開発と支援ワーク

司会：吉村輝彦（日本福祉大学）

開会挨拶	09:30~09:40	加藤幸雄（日本福祉大学学長）
基調講演	09:40~10:40	福祉社会の開発・支援 余語トシヒロ（日本福祉大学）
	10:40~10:50	休憩
報告	10:50~11:40	アジアセンター3年間の歩み〜 開発と福祉の視点から 穂坂光彦・平野隆之（日本福祉大学）
	11:40~12:40	休憩
パネルディスカッション	12:40~14:30	地域再生における政策・場づくり・支援ワーク コーディネーター：平野隆之 ・高知県での地域づくりの取り組み 高知県地域づくり支援課 田中佐和子・森本美佐子 ・韓国鎮安郡での村おこしの取り組み 鎮安郡戦略産業課村おこしチーム 具滋仁 ・コメント：山首尚子（土佐町社会福祉協議会）、朱安新（南京大学）
	14:30~14:40	休憩
	14:40~16:30	地域での社会関係の再構築 コーディネーター：穂坂光彦 ・釧路での取り組み 地域生活支援ネットワークサロン 日置真世・高橋信也 ・北芝での取り組み 暮らしづくりネットワーク北芝 池谷啓介・中嶋三四郎 ・全体討論
総括	16:30~16:50	吉村輝彦・穂坂光彦・平野隆之（日本福祉大学）

3月16日（水）公開ワークショップ

「場」から拓く支援とフィールドワーク

『支援のフィールドワーク』出版記念

開発や福祉の支援現場では、経済的貧困、高齢、障害といった対処すべき問題を構造化することで、対象となる「被支援者」がきまる。しかし実際の現場では、一人ひとり個性をもった私たちが、さまざまな出会いの中で、一方が他方に支援するといった単純な関係では説明しきれない場面に日常的に直面している。

そのようなダイナミックな支援現場での経験を経たフィールドワーカー達が、人々のありのままの文脈を深く理解しようとする事と、人々のよりよい人生に向けてどのような支援の可能性があるのかということ、ひとつとこで考えることに意味があるのではないかという思いを共有し、『支援のフィールドワーク—開発と福祉の現場から—』（小國和子・亀井伸孝・飯嶋秀治編、世界思想社、2011）が編まれた。舞台は、占領下のパレスチナからタンザニアや日本の農村、そして児童福祉施設まで多岐にわたるが、そこには共通の視点——支援関係の新たな地平を模索すること——がある。

支援という営みが起こる場面と人びと全体を眺めわたし、描くことで、支援という行為とそれによって生まれるもろもろの関係を見つめ、とらえ直すきっかけを探りたい。それがひいては、支援関係における隘路から抜け出し、新たな可能性を柔軟に花開く手がかりになれば——、それが本ワークショップの登壇者を含む、著者たちの願いである。

本ワークショップでは、執筆陣によるメッセージの発信を新たなスタートとして、「フィールドワークを含みこむような支援実践」と「支援からみえるフィールドワーク」の可能性について、参加者の皆さんと広く意見を交わしたい。

◆挨拶と主旨説明	13:00~13:20	
主催者挨拶	13:00~13:05	穂坂光彦（日本福祉大学）
解題	13:05~13:20	亀井伸孝（大阪国際大学）
◆個別報告 前半	13:20~13:40	「ネパールの被差別カーストの運動に寄り添う」 中川加奈子（関西学院大学）
	13:40~14:00	「チリの開発プロジェクトでの偶然の出会い」 内藤順子（日本女子大学）
	14:00~14:20	「渋川のおばちゃんたちが挑む地域づくり」 辰己佳寿子（山口大学）
休憩	14:20~14:30	
◆個別報告 後半	14:30~14:50	「ブルキナファソ農村の女性グループとともに」 浅野史代（名古屋大学大学院）
	14:50~15:10	「タンザニア農村の一時漂泊者」 黒崎龍悟（福岡教育大学）
	15:10~15:30	「支援のフィールドワークを深めたい人へ」 白石壮一郎（関西学院大学）
	15:30~15:45	質疑・応答
休憩	15:45~16:00	
◆総括コメントと会場討論	「場から拓く—支援実践とフィールドワークそれぞれの可能性」 16:00~17:30	司会：小國和子（日本福祉大学）
	16:00~16:15	コメントと問題提起 清水展（京都大学）
	16:15~16:30	コメントと問題提起 中田豊一（参加型開発研究所）
	16:30~17:15	全体討論
	17:15~17:25	まとめ



アジア福祉社会開発研究センター

Research Center for Asian Social Well-being and Development

日本福祉大学アジア福祉社会開発研究センター
2010 年度国際研究集会

2011 年 3 月 13 日 国際シンポジウム

2011 年 3 月 16 日 公開ワークショップ

主催：日本福祉大学アジア福祉社会開発研究センター

名古屋市中区千代田5丁目 22-35

Tel : 052-242-3082, Fax : 052-242-3076

<http://www.n-fukushi.ac.jp/research/arc-wd/>